

10月『地引き網体験』

～全行程アルバム～

2010年10月17日(日)

今回のキッズフィールドは、「地引き網体験」です。もちろん、ほとんどの人が初体験。「網を引くのに、あんなに力がいるなんて、びっくり!」、「楽しかったけど、とても疲れました!」などの感想が聞かれました。たしかに、網を引くのは重かった!しかも、30分もずっと引き続けるのですから、大変!翌日は腰が痛くなったお父さんもいらっしゃったようです。

でも、獲れた魚はいっぱい!しかも、現地スタッフが「いつもより、種類が多い!」と驚くほど。楽しそうな様子を、画面でお伝えいたします。

～ウイングキッズ企画室一同～



秋の始まりで、海の水は少し冷たかったけど、獲れた魚はいっぱい!山にはキノコもたくさん。

大房岬は3回目ですが、これまでとはちがった自然に触れることができました。



《到着！さあ地引き網だ！》



バスを降りました。
すぐそこが海岸です！いざ、海へ向けてしゅっぱーつ！

お、ちゃんと軍手をはめてるね。

子どもたち、みんなワクワクしてます。

天気は“うすぐもり”。
地引き網には調度いい。



地引き網をする海です。
上から見るとこんな海岸。



海岸で、すーっと風に吹かれてた犬。
(気持ちよさそう！)

まず、説明をみんなで聞きます。

「これから、2グループに分かれて、引いていくよ！」

「さわっちゃいけない魚もいるから、漁師さんが分けるまではさわらないでね。」



さあ、みんな引いて！

子どもたちも真剣ですが、大人の方がもっと真剣！

「重い〜！」



さわれない代表格！
「ゴンズイ」です。
背びれと胸びれにとげがあります。有毒です。

2つのグループに分かれて引きます。どちらかが遅くなると、沖の小舟から赤い旗で知らせてきます。そのたびに、「おーい、遅れてるよ〜！」とスタッフからゲキが飛びますが、引いているみんなは、「かんべんして〜」とつらそう。でも、笑顔です！それもまた、楽しい！
ある程度引くと、漁師さんの合図で、2つのグループがお互いに近づいていきます。

こちらが、左側のグループ。



こちらは、右側のグループ。



だいぶ、近づいて来ました。でも、まだまだです。「みんなあと一息だよお！」

「って、どれくらいなのお？」息があがり始めてます。



では、このページで、引いている間の子どもたちの表情を特集！



楽しそうだね！



兄弟で引いてます。「お兄ちゃんガンバ！」



「よいしょ！よいしょ！」



「重い〜！」



波打ち際で引くのは、特等席！



「おもしろ〜い！」



もう少しだよ〜！



いつも仲よし親子。



「ふう、疲れた！」



。「お父さん！ガンバ！」





網が見え始めました。「もうすぐ魚が見られるよ！」



網の先端部分では、カモメがいっぱい。



最後は漁師さんが引きあげてくれます。→

どんな魚が獲れたんだろう？ 子どもも大人も、ワクワクしながら網があがるのを待ちます。



海底のどろと一緒にあがってきました。



初めて見る魚もいっぱい！ みんな大興奮！



まだ、どろの中にどんな魚がいるかわからないから、さわれません。「ゴズイもいるよ〜。」



これはスズキ→
「えらぶたがとんがってる！」
「バスの中で教わった通りだあ！」



地元のボランティアの方が、ひとつずつ手にとって、種類や習性を教えてくださいます。



獲った魚は、洗ってからいよいよ調理です！

《移動して、野外炊飯場へ》



「見て！見て！エビだよ！」→

洗った魚が届きました。

「さわっていい？」

「あぶない魚はよけてあるからいいよ！」

「わーい！」

子どもたちが早速集まってきました。



「じゃあ、これから調理教室をはじめま〜す！」

「この方は、少年自然の家の“料理長”の松田さんです。」

このあとみんな親しげに「料理長！」と呼んでました。

「はじめに、3枚におろす方法を

やるよ！よく見てね！」

これ、さっき獲れたスズキです。

(※今回は生食を避けました。)

さあ、みんなもさばいてみよう！



さばいた魚は、唐揚げにして食べます。「ハフ、ハフ、おいし〜」



今回、特別に料理長が作って下さった、「さんが焼き」です。とても美味しい。

最後に、獲れた魚の勢ぞろい！



最後に少年自然の家の前で、記念写真。「はい、チーズ！」



今回は、魚を獲るところから食べるところまで、全部体験しました。ある男の子が「漁師さんって、あれを毎日やるの？ほんとに大変だね。」と言っていたのには感心。職業体験でもあったようです。

みなさん、本当にお疲れ様でした！

※参加された方には写真の使用についての承諾を得てあります。

撮影…ウイングキッズ企画室：日高（一部、松村先生から写真を拝借いたしました）